

学校だより

NO. 499

令和8年4月30日



品濃

〈横浜の教育がめざす人づくり〉

自ら学び 社会とつながり ともに未来を創る人

〈学校教育目標〉

大好き自分 大好きみんな ともに創る品濃の子

・知 生きて働く知 ・徳 豊かな心 ・体 健やかな体

・公 公共心と社会参画 ・開 未来を拓く志

横浜市立品濃小学校

電話 824-0651

FAX 826-2183

URL <https://www.edu.city.yokohama.lg.jp/school/es/shinano/>

相手に届く言葉で安心できる空気をつくる

校長 針持 拓郎

令和8年度が始まって、早1か月。澄んだ空を背景に、学校周りの青葉が美しく輝いているのを見ると、初夏の緑が似合う学校と地域だなと感じるこの頃です。その爽やかな風景に、子どもたちの元気な挨拶の音が響き渡っています。

さて先日の朝会で、児童支援専任から「品濃小のやくそく」について話があり、その中で三つの大事なこととして「命を守る行動」「学ぶ準備を整える」「言葉で学校の空気をつくる」について話題にしました。

品濃小学校の魅力の一つは「挨拶」です。朝や帰りだけでなく、校内ですれ違ったときにも元気な挨拶が聞かれます。これまでの取組の成果だと思います。また先日、日々の学習の様子を見て回っていると、あるクラスで詩の暗唱を発表している姿が見られました。その時、発表している児童が1フレーズ1フレーズ語るたびに、クラスの仲間が「うんうん」「OK!」などと声をかけている様子が素敵だなと思いました。こうした言葉があふれることで、クラスや学年での安心感を得られるものだと思います。

一方で、一般的に子ども同士の言葉かけは厳しくなりがちなどがあります。これは語彙量の問題や、受け手の気持ちを慮る力がまだ育ちきっていないといった理由によるものです。こうした場合、言葉を発している児童に悪気はないことも多く、またこれらの厳しい言葉かけは、自分に正しい主張があるときや相手に注意したいときに起こりがちです。自分が正しいと思ったことを伝えることは必要ですが、その言葉や態度に思いやりが込められていなければ相手の心には響かず、むしろ「攻撃された」「否定された」という思いを抱くだけで、その真意が伝わらないこともあるでしょう。伝えたい思いが伝わらない（むしろ誤解を与えてしまう）のであれば、せっかくの言葉が逆効果になってしまう可能性もあります。それは双方にとってとても悲しいことです。

小学校は特に、できないことをできるようにしていく場所です。間違ったり失敗したりすることもあります。相手への言葉に思いやりを込め、真に心に届く言葉になっているか、衝動的に言葉を発していないか、子どもたちにもぜひ考えてほしいところです。品濃小の子どもたちであれば、適した言葉の使い方、伝え方が見つけられるのではないのでしょうか。それが「言葉で学校の空気をつくる」ことにつながっていくと思います。



児童支援専任から改めて一年生入話をしました。